

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年5月1日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2772001539
法人名	アライヴ株式会社
事業所名	グループホームあいむ
所在地	大阪市住吉区南住吉2丁目6番2号 (電話) 06-6695-5502

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 4月 13日

【情報提供票より】(平成 21年 3月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	24人	常勤 9人, 非常勤 15人, 常勤換算	8.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての	2階 ~	3階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,000円	その他の経費(月額)	24,000円	
敷金	有() 円 無()			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() (300,000円) 無()	有りの場合 償却の有無	有() / 無()	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要 (平成 21年 3月 20日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	4名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	72歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人杉本医院、松本クリニック、医療法人紀陽会 長居クリニック、医療法人弘善会 矢木脳神経外科病院、医療法人弘善会病院、尾島歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から徒歩圏内にあり閑静で緑も多く、スーパーや病院が近隣にある2ユニットのグループホームです。「わたしもみんなも一緒に楽しい生活」をホームの理念とし、日々変化する利用者の心身の状況を的確に理解して、本人を尊重しながらどのような社会生活を送っていただくかを職員は検討しながら日々取り組んでいます。買い物は近隣のスーパーへ生鮮品を買いに利用者と共に出かけしています。3食共にホーム内で調理を行い、盛り付け、洗い物など、利用者は役割分担をして意欲的に行っています。ホームページを作成し、グループホームでの生活をより理解してもらえるよう努力しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価に改善項目はありませんでした。施錠についてはホーム全体で検討を重ね、内側からは自由に開けられる状態になっています。開錠することの意義とリスクを家族にも理解を得ながら、開錠を実践しています。引き続き検証を行い、問題点についても考え、開錠から地域との繋がりの発展に順次取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、現状分析をしながら職員一人ひとりの意見を聞き、運営者、管理者が作成しました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議を規程に明文化しています。地域包括支援センター職員・民生児童委員・町会長・老人会会長・家族代表・職員が参加し、2ヶ月に1回開催しています。生活状況の報告やホームページ「あいむの1年」を見てもらい、グループホームでの研修生の受け入れや職員の外部研修報告も行っています。また委員からの情報で自治会の盆踊りへの参加や地域ボランティアの来訪も増えました。運営者は区の事業者連絡会の役員を務めており、ネットワーク作りの中心となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族来訪時には近況を伝えると共に相談にも応じています。毎月1回利用者毎に近況報告やお知らせ、写真を同封し家族へ送っています。職員の異動については家族の来訪時に紹介し、玄関に写真を提示する等してお知らせしています。また、小口現金については支出明細と領収書を送付しています。個別の金銭出納簿も作成し、家族の確認印とサインを得ています。家族交流会として忘年会を開催し、要望などについても聞いています。職員は家族等から気軽に話しかけていただけるよう努めています。また玄関には意見箱を設置しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会や老人会の会員となっています。毎朝のホーム近辺清掃や毎月行われる町内会清掃活動に参加し、小学校の盆踊りには利用者全員参加して地域住民との交流を図っています。運営推進会議に町内会役員の参加も得て理解も深まり、町のイメージアップにつながっていると受け入れてもらっています。小学校の夏祭りには席を用意してもらい、花火の見物もしました。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「わたしもみんなも一緒に楽しい生活」を基本理念標語として掲げています。「地域のグループホームとして、お年寄りとその家族のために、また人々のために、地域社会のために、健全で安らかな生活を提供し、老人福祉に貢献することを通じて、職員の幸福につながることを目指しています。」を基本理念として地域との関わりをもちながら、利用者支援を行っています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲示し、家族や来訪者にも見ってもらうことで理解を深めています。また、職員には採用時研修や会議で理念について話し合い、理解を深めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	町内会や老人会に加入しています。毎朝ホーム近辺の清掃を行い、毎月町内会の清掃活動に参加して地域住民との交流を図っています。自治会の盆踊りには利用者全員で参加しています。小学校の夏祭りには席を用意してもらい、花火の見物もしました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	平成19年度の外部評価結果で示された鍵の件については職員会議にて検討を行い、問題点を考えて順次取り組みを行っています。自己評価については、職員の意見を聞きながら運営者や管理者が作成しました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を規程に明文化しています。メンバーには地域包括支援センター職員・民生委員・町会長・老人会・家族代表・職員が参加し、2ヶ月に1回開催しています。会議では生活状況の報告をしたり、ホームページ内の「あいむの1年」を見てもらったり、他グループホームの職員研修の受け入れや、職員の外部研修報告も行っています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者には必要の都度、相談をしています。外部評価結果も1ヶ月以内に区へ報告し、事故報告も適切に行なっています。運営者は区の事業者連絡会の役員を務めており、ネットワーク作りの中心となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には近況を伝えると共に、家族からの相談にも応じています。毎月1回利用者一人ひとりの近況報告やお知らせと共に写真も送っています。職員の異動については、玄関に写真を啓示するとともに、家族の来訪時にも紹介しています。また、小口現金については支出明細と領収書を送付し報告しています。個別の金銭出納簿を作成し、定期的に家族の確認印とサインを得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会として忘年会を開催し、数名の家族が参加しているいろいろな話し合いができています。また家族の来訪時には気軽に話しかけていただけるよう努め、管理者や職員が状況報告を行い、要望などについても聞いています。また玄関には意見箱を設置しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ヶ月程度は先輩職員が介護方法、コミュニケーションなど丁寧に指導し、徐々に馴染みの関係を築いています。開設時から勤務している職員が多いため、スムーズに関係づくりができています。新規の採用時には家族にも利用者にも報告しています。玄関に職員の写真と名前を掲示し、お知らせすることもあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員のスキルアップに熱心で、職員が目標とする受験や資格取得に対して、シフトなどを配慮するとともに、定期的に指導・助言をしています。外部研修への告知、毎月の「グループホーム構築会議」も倫理の勉強会になっています。内部研修は職員勉強会を開催しており、職員全員が自己研鑽の意義を周知しています。「認知症」「感染症」「緊急時対応」の内容を含む研修についても実施しています。認知症介護実践者研修も順次受講の予定をしています。また新規職員には、採用時研修を実施しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会、大阪市グループホームネットワーク、住吉区事業者連絡会に加盟し、役員を務めており、昨年は施設部会として事例報告も行い、職員も会合に参加してサービスの質の向上に取り組んでいます。グループホームの相互の訪問や新設のグループホームの見学等もあり、研修の機会にもなっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の申し込みには、家族が相談に来訪します。その後職員が、自宅で面接を行い、生活歴や家庭環境などを把握します。その上で本人におやつの時間に来訪してもらい、雰囲気を感じてもらっています。入居後は家族との関係を密にしながら、徐々にホームへ馴染んでもらえるよう支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意とするところを早期に発見し、役割を持って頂いています。京都で生活された方には料理の時、京都の味付けや米の研ぎ方を教わったりしています。それぞれ話をしながら家庭で行っているかのごとく、当たり前のように進めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人から趣味や好きなことを会話の中から汲み取り、介護計画に取り入れています。自宅から仏壇を持ってこられて、部屋に置いている方がおり、お花を供えたりご飯を供えたりして先祖へお努めしています。以前のアパートの家主であることを忘れないようにアパートの写真を貼っている方もいます。踊りの好きな方は、音楽にあわせて楽しんでおられます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定例会議に職員が参加し検討を行い、また在宅生活時のケアマネジャーからの情報を参考に利用者や家族の意見を取り入れて介護計画を作成しています。また、アセスメントシートを作成し、利用者の生活歴、ライフスタイルについても記載されており、利用者が望まれる生活を取り入れる努力をしています。作成した介護計画について、利用者や家族から同意のサインを得ています。職員は、毎日の申し送りで必要な情報の伝達と確認を行えるようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については6ヶ月ごとに作成を行い、利用者の状況の変化など必要に応じて2～3ヶ月での見直しを行っています。目標については、日々の記録や必要に応じたミーティングで話し合いを行い、利用者の状態変化や状況、家族や利用者の要望に応じて見直しています。アセスメント記録、カンファレンス記録、モニタリング記録や見直された介護計画書もあります。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	様々な方法を検討し、外出や外泊の機会を増やしながら、退居し自宅へ戻られたケースがあります。家族との宿泊については規定を定め、法事のために自宅へ外泊されたり、家族と外食したりする支援も行っています。また近隣住民の介護相談に応じることもあります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回内科の往診があります。また精神科医の往診や相談支援もあります。歯科の口腔検診は年1回受けています。かかりつけ医の受診も家族と共に支援しています。また、近隣の総合病院へ受診して急変による入院に備えて医療機関との支援体制も整えています。年1回定期検診も受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、重要事項説明書にも対応方法の記載があり、入居時に家族へ説明を行っています。重度化した場合は利用者や家族の意向を聞き、主治医とも話し合っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが勉強会やミーティングの際、プライバシーに関する意識の向上を図り、また、日々の介護の場面でも利用者を尊重した対応を心がけています。誇りやプライバシーには注意を払い、言葉遣いへの注意を心がけています。非常勤職員も含めて秘密保持に関する誓約書を交わしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の中にはアルコールを好まれる方もおり、ビールを自分で買いに行き毎晩少量飲んでおられる方もいます。また薬用酒を飲んで安眠される方もいます。朝夕の新聞を取りに行ったり、毎日お経を唱えたり、仏壇に水を供えたりされる方がいます。それぞれに自分の好きなことや希望に沿って過ごしています。自分の一日の日課を壁に貼り、自分の計画に沿って生活される方もいます。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食共ホーム内で調理しています。生鮮食品はスーパーへ利用者と共に行き買いに出かけています。利用者が話し合って献立を作る日、鍋物や鉄板焼きをする日等、利用者が楽しめるように工夫しています。月2回利用者が台所に立ち、料理をしてもらう日を作っています。それぞれ役割を持ち、全員参加で食事を作っています。食後は食器洗いや食器拭き、食器棚へ収める方やテーブルを拭く方等、利用者を中心に行えるよう支援しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日沸かしており、週3回は入浴してもらえるよう支援しています。利用者の希望に応じた対応を行っています。利用者がゆったり入浴を楽しめるように急かすことなく、またその日の体調に合わせて支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝夕の新聞を階下まで取りに行くことを日課にされる方や玄関の植木の水やりを責任もってされる方、踊りの好きな方、週に1回、一人でビールやお菓子を買に行かれる方、料理の好きだった方には季節野菜のおいしい食べ方や煮物の作り方を教えてもらうこともあり、利用者もそれぞれに楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は毎日当番を決めて、徒歩5分のスーパーへ食材の買い物やおやつを買いに出かけています。歯科や理髪店に一人で出かける利用者もいます。また近くにせせらぎの遊歩道があり、交通量も少ないため安心して散歩を楽しんでいます。家族と外食や自宅での一時帰宅、旅行に行かれることもあります。また法事や墓参りにも家族の方と出かけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	平成19年度の外部評価受審以降、ホームの構築会議で検討を行い、玄関、各階の居室、エレベーター等は鍵をかけない工夫をしております。内側からは自由に開けられる状態になっています。例えば、利用者の外出時にはホームの住所や電話番号を記載した身分証を渡し、所持金と購入予定品を話し合うこともあります。家族とも話し合い、その都度対応を行っています。また地域住民の見守りや顔なじみの関係により、鍵をかけないケアに取り組んでいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を得て利用者も全員参加して消火・避難訓練を行っています。非常口は、すぐに開錠できるよう鍵を近くに置いています。運営推進会議でも地域の協力について話し合いが行われています。非常用の備蓄として、非常食や水など数日分準備しています。水はペットボトル等の容器にも保存しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量については記録し、水分制限のある利用者や糖尿病の方には十分に注意を払っています。調理師免許をもつ職員と相談しながら、利用者の好みや栄養バランス、それぞれに必要なカロリーを把握し、献立を立てています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は毎朝利用者が掃除を行い、清潔に保たれており、季節の草花も咲いています。共用空間はゆったりとしていて採光も良く、畳スペースやソファ、ベンチがあり、一人ひとりがゆっくりとくつろげる工夫があります。また、オープンキッチンが2カ所あり、利用者は椅子に座ってもやしの根を取ったり、包丁を使って調理したりしています。また、洗った食器を食器棚に収めている方もおり、それぞれにできることを楽しんでいます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台やロッカー、ベッドが備え付けられています。各家庭からタンス、仏壇、椅子、家族の写真などを持ち込み、また自分の作品などを飾っています。それぞれ個性的で居心地の良いうように工夫しています。また各部屋にはベランダがあり、洗濯物を干している方や、植物を育てている方もいます。		